

1 昨年度の取り組みにおける成果と課題

成果		課題	
1年	2年	1年	2年
・水やりなどの世話がよくできた。観察カードは、国語科の学習を生かしながら、よく見て絵や文に表すことができた。 ・アサガオのつるを利用してリースを作るなど、日常生活の中に活動や体験を継続させることができた。そのことにより、生命の大切さに気付くことができた。 ・「おもちゃランド」の活動を通して、2年生とのかかわりが深まった。 ・近隣の幼稚園の年長児にぶんぶんごまをプレゼントしたことで、自分や友達の成長を実感できた。	・地域の人へのインタビューや施設の見学を通して、聞いたことをメモしたり、質問をしたりする力が高まった。 ・1年生と「おもちゃランド」の活動を通して、楽しませるために創意工夫をすることができた。 ・ミニトマトや夏野菜を土作りから始め、作物への愛着がわき、楽しさや収穫の喜びを経験することができた。 ・動植物の飼育方法や、町の様子をタブレットで調べたり、発表スライドを作ったりすることで、情報活用能力が高まった。	・植物とのかかわりで、教師や保護者に促されて世話をするのではなく、自らかかわる力をつける必要がある。 ・感染症拡大防止のため、異学年や地域の方との交流の時間が取れず、活動が制限されているため、ICT機器の活用や体育館など広い場所での活動など、工夫が必要である。	・班活動では児童の主体性に差が見られ、班の組ませ方に工夫がいる。 ・動植物の世話をを行う体験を通して、生命の大切さに気付かせていく必要がある。 ・感染症拡大防止や暑さ対策など、気を付けつつ徐々に活動の幅を広げていく必要がある。

2 課題を踏まえて次の取り組みを行います

1年	2年
・「みつけたよカード」「だいはっけんカード」をいつでも書けるよう、あさがおコーナーにいつも置いておく。また、つるが伸びたところにはテープを貼ったり、よく見て観察できるよう、虫めがねのような道具を用意したりし、自らあさがおにかかわりをもてるようにする。 ・2年生の『おもちゃランド』で遊ぶことや、できる範囲で6年生とのかかわりを深めるなどし、異学年交流の楽しさを実感するとともに、生活の決まりを身に付け、2年生に向けての意識を高める。 ・昔遊びを楽しむ活動の際に、遊び方や当時の様子について地域の方からお話を聞く機会を設け、交流を深める。	・国語の学習と関連させ、生き物の様子やおもちゃの作り方を説明文に書かせる。説明の順序や視点をまとめさせ、プログラミング的思考力の向上につなげる。 ・学習発表では一人ひとつ以上の役割をもたせるようにし、学習に対する主体性を伸ばす。 ・異学年や地域の人との交流を行い、人とかかわり方、マナーやルールを学び機会を作る。 ・学校外の活動では、人数制限や方法をよく打ち合わせし、またスクールサポーターを活用するなどし、安全面や感染面の対策をしたうえで、実施する。